

時代・社会が求めている事に 果敢に挑戦した一年。



私たち一人ひとりには、その時々によって様々な立場があります。このまちに住み暮らし働く市民としての立場、また消費も含めた経済というものに関わる立場、先に生を受けた者としての立場があります。それぞれの立場において、各々の責務を果たし、その上で新たな歴史を刻む人びとが、このまちに溢れば、本年度（社）大阪青年会議所が掲げる「凛々しいまち大阪」は実現します。昨今、何事においても自身以外の事象に対して、憂い嘆くことばかりが先に立ち、それぞれの立場における己の責務を果たす事を忘れていた人が非常に増えている中、本年度私たちは、現実から目を逸らさずに、まずは自身の為すべき事を為した上で、意思意見を持ち、述べ、行動するよう努めて参りました。

また、60年の歴史のあるこの組織の持つ財産を活用し、新たな層へと踏み出し、新たな歴史を刻む事にも注力し、時代に合った、社会が求めている事にも果敢に挑戦しました。新たな歴史を刻むというのは、過去の実績やマニュアルを忠実に再現するだけではなく、過去の経験を踏まえた上で、時代のニーズにタイムリーに応じて行動を起こした時にのみ刻まれるという信念を持って、青年らしくタブーを厭わず。このまちに住み暮らし働く市民として、民意主導で理想社会実現を推進するために、首長や国会議員選出のための討論会を公開の場とWEBの両方で実施し、加えてアンケート採取などにより、汎用性のある市民ネットワークのベース構築を行いました。

また我々市民は、行政に求めるだけでなく、市民が率先して行わなければならない事を、ただ単にJCと行政で協働するのではなく、現在地域で活躍されている方と共に、そして私たちの次の世代をも巻き込み輪が広がるように工夫を加えて実施し、永続的実施に向け、関係者全員での意見交換会を行い、今後の取り組みを更に発展することに寄与できたと自負しております。その上で、大阪市の事業との共催事業「城灯りの景」「OSAKA キャッスル☆ハッスル!!」にも挑戦し、数時間で数万人の来場者にお越し頂くという行政にとっても、我々にとっても過去に無い実績を残すことができました。このような新たな試みに果敢に挑戦し、本当に公共が求めている事を行う事こそが、私たち本来の目的であり、これからも我々の組織の為すべきことであると考えます。

本年は、全ての事業において、私たちメンバーの共益のみの活動を極限まで抑え、少しでも多くの公益目的事業を開催して参りました。その上で、議論を重ね、実態を検証し、未来のまちのために一層私たちが選択した法人格は、「一般社団法人」。この法人格を選択したからといって、この組織の目的は、より良いまちの、国の、世界のためにあります。本年新たに刻んだ歴史を、より大きな効果に変える組織へと躍進することを切に願います。最後になりましたが、本年（社）大阪青年会議所の活動に多大なるご協力を頂きました皆様、心より感謝申し上げます。

第61代 理事長

池田 太八